



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
〒870-0022
大分市大手町3-2-9
TEL 097-532-4919
FAX 097-534-6598

県民の明るい未来を切り拓く年に

2016年最後の議会となる第4回定例県議会が、11月25日から12月14日までの日程で開催されました。開会冒頭に広瀬知事から、来年度の県政運営に関わる課題について報告がありました。熊本地震から7ヶ月が経過し、県内でも着実に復興が進んでおり、景気の面でも回復基調にあることから、そのてこ入れの意味からも大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」の取り組みを加速させ、来年度予算編成に向けて具体的な政策をブラッシュアップさせていく抱負が述べられました。また、熊本地震での災害対応



▲議席の守永信幸

についての検証結果を踏まえ、防災力・防災機能を強化し、南海トラフ地震に備えることや、2018年の「国民文化祭」、
「全国障害者芸術・文化祭」、2019年のラグビーワールドカップと言ったビッグイベントが大分県で開催されることから、これらを地方創生の牽引力として成功に向けた準備を進めていくこと、さらには、東九州新幹線の整備計画路線への格上げと早期開業に向けて力強く進めていくことが報告されました。

審議された議案としては、一般会計補正予算が71億3千万円余、景気回復の後押しと併せて交通ネットワークの充実を図るための道路整備などや、予算外議案として大分県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例制定などが審議され、可決しました。

熊本地震の被災から復興へ駆け抜けた年

4月に発生した熊本地震により、観光をはじめとする様々な産業で大きな影響を受けました。4月以降は、被災後の復旧や復興に追われた年ともなりました。

大分県では「平成28年熊本地震検証報告書」を12月にまとめ、ホームページなどで公表しています。検証項目としては①災害情報、②避難者



▲提案理由を説明する広瀬知事

支援、③支援物資、④災害対策本部、⑤その他の5項目について、4月14日の前震から初動対応終了の4月28日までの間の県の対応について検証を行ったものです。今回の地震対応で反省すべき点を、災害発生時、特に南海トラフ大地震発生時に活かすことが大切です。

被災後の復旧・復興作業は、効率的に進まない部分もありますが、風評被害対策については、観光客の誘致に「九州ふっこう割り」といった旅行支援策を打ち出し、大分県を訪ねる観光客数も7月が前年比96%にまで回復し、9月は104%ともなりました。しかし、被災した観光施設等を今後どうしていくか悩んでいる方も大勢居られます。引き続き開催されるビッグイベントが営業再開に上手くつながるよう、施策を県としても考えていくべきでしょう。

大分県のめざす未来の議論を

東九州新幹線については、賛否両論があると考えています。人口減少に拍車が掛かるのではないかと、負担が大きすぎるのではないかとご意見もあれば、博多や北九州が通勤圏内となる、関西からの来県が増えるといったご意見もあります。高齢化や人口減少が進む時代に、どのような将来像を描くのか、本当に必要なインフラなのか、時間を掛けて新幹線の持つ意味について議論を深めなければなりません。

また、今定例会の一般質問で、子どもの貧困に関する問題などが取り上げられました。高齢化と人口減少が進む大分県の将来をどう切り拓いていくか、真剣な議論が必要な課題です。今号では、この2点について次頁で少し考えてみたいと思います。

東九州の将来構想の中で ～新幹線を考える～

2016年10月に大分県は経済団体や市町村などとともに「大分県東九州新幹線整備推進期成会」を設立していますが、広瀬知事は、定例県議会で東九州新幹線に触れ、「災害に強い九州づくりを進めるに当たっての重要な基礎的インフラであり、費用対効果などについての調査結果の説明会を県内6地域で実施したところ、整備を期待する声が多く、経済界等からも早期実現に向けた強い要望を頂いた」として、整備計画路線への格上げと早期開業に向けて県として進める決意を述べました。

ルートについての検討

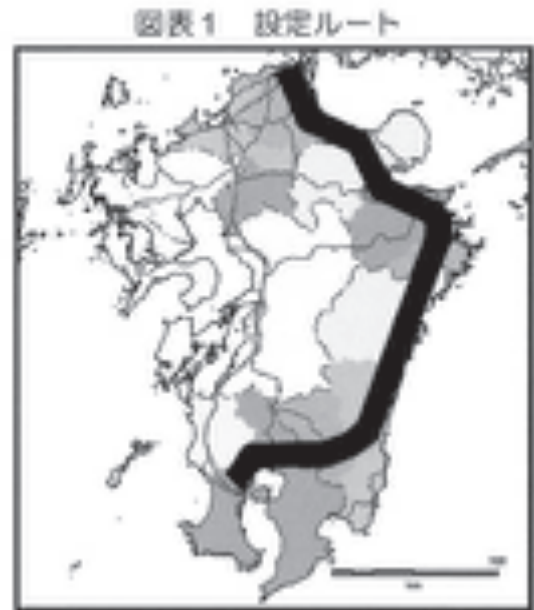
東九州新幹線については、県議会での質問で小倉-大分間ではなく、博多-大分間を結ぶ久大線ルートの検討をすべきではないかの指摘もありました。東九州新幹線の基本計画は、福岡市を起点、鹿児島市を終点として、大分市付近、宮崎市付近を通るルートと定められています。久大線ルートも基本計画には検討が可能なのですが、関西圏からのアクセスを考えると日豊本線に平行して走るルートには、優位性がありそうです。

東九州新幹線の想定する所要時間は図表2に示すとおりです。北九州（小倉）-大分間は約30分程度で、日豊本線ルートでも博多-大分間は、50分程度で結ばれることとなります。また、大分-関西エリアが4時間以内で結ばれることになれば、九州東側沿線の人の動きや関西からの人の流れも大きく変わると考えられます。

大分県の発展性を、九州中心で考えるだけではなく、関西エリアをもっと重視して考える必要があると考えます。その上で、大分県にとって総合的なメリットが何処にあるのか議論を深めていかなければなりません。

費用対効果と経済効果

費用対効果については、2060年から50年間営業した場合に、現在の人口減少の推計ベースにお



いても1.07であるとのことであり、人口減少への歯止め策が功を奏した場合は、1.36にまで伸びるとも試算されています。この試算については、多方面からの分析も必要ではないかと考えます。

経済効果は九州全体では、直接効果（施設整備投資額）として2.27兆円、一次波及効果として2.28兆円、二次波及効果として1.66兆円、合計すると6.21兆円が計上されています。このうち大分県に関連するのは、1兆5809億円とされています。これらの経済効果が、きちんと発現するように県として今後の経済政策にどの様に取り組むのか、建設の可否と併せた議論が必要でしょう。

生活路線への影響

新幹線が整備された路線では、沿線の県や市町村の同意を得た上で、整備新幹線の開業後に平行在来線が、JRから経営分離されることがあります。

新幹線が開通したときに、既存の在来線をどのように維持していくのかも議論しておかなければならないでしょう。第3セクターとなり、利便性が低下したのでは、私たちの日常の足が失われることにもなりかねません。

新幹線の利便性だけに着目せず、様々な影響と、講ずべき対策について、皆さんと一緒に考えていきますので、ご意見を頂ければと思います。

図表2 設定ルートに基づく所要時間

区 間	現行特急 所要時間	新幹線 キロ程 (想定)	表定速度 (想定)	所要時間 (想定)	短縮時間 (想定)	所要時間 (博多発)
北九州 ⇄ 大分	分 83	km 110	km/時 210	分 31	分 Δ52	分 47
大分 ⇄ 宮崎	189	170	210	48	Δ141	95
宮崎 ⇄ 鹿児島	129	100	210	29	Δ100	124
北九州 ⇄ 鹿児島	401	380	210	108	Δ293	-

夢に向けて歩くために ～脱貧困への道を拓く～

子どもの貧困の問題は、その子が育つ家庭の所得（親の所得）の問題から起因するものですが、子ども達の将来が、生まれ育った家庭の事情等によって左右され、さらに貧困の連鎖から抜け出せない状況を放置するわけにはいきません。

子どもの貧困対策については、国が2014年8月に「子どもの貧困対策に関する大綱」を制定し、大分県でも国の大綱を踏まえて、2016年3月に「子どもの貧困対策推進計画」を策定しています。

子どもの貧困率とは

国が示す「子どもの貧困率」は、2013年のデータをもとに16.3%と算出しています。国の調査では、都道府県ごとの子どもの貧困率は算出されていません。

国の算出方法と異なる方法で、山形大学の戸室准教授が各都道府県の子どもの貧困率を算出して



▲広瀬知事に質問する玉田議員

います。戸室准教授は各都道府県の生活保護世帯における平均の最低生活費を貧困ラインとして、所得がその水準を下回る世帯に属する子どもの比率を「子どもの貧困率」として各都道府県ごとに算出しています。この手法での全国の子どもの貧困率は13.8%と算出されています。国の比率との差は、貧困ラインが低くなったためです。戸室准教授は、子どもの貧困問題の根本的な課題が、世帯の所得の低さにあることに着目して、このような算出方法を採用しています。この発想は、対策を講じる上でも重要な発想であると感じます。

表-1.生活保護世帯の子どもの進学率、就職率、高校中退率

			2013年	2014年	2015年
中学校 卒業後	進学	生活保護世帯	90.0%	91.5%	86.2%
		県全体	98.8%	98.9%	98.6%
	就職	生活保護世帯	1.4%	1.5%	2.6%
		県全体	0.3%	0.4%	0.6%
高等学校 卒業後	進学	生活保護世帯	27.4%	26.0%	33.3%
		県全体	71.1%	70.6%	71.6%
	就職	生活保護世帯	55.6%	54.3%	57.1%
		県全体	26.2%	26.5%	26.3%
高等学校等中退率	生活保護世帯	5.6%	5.5%	6.9%	
	県全体	1.6%	1.7%	1.5%	

表-2.児童養護施設入所児童の進学率、就職率

			2013年	2014年	2015年
中学校 卒業後	進学	施設入所児童	92.6%	100.0%	86.2%
		県全体	98.8%	98.9%	98.6%
	就職	施設入所児童	3.7%	0.0%	2.6%
		県全体	0.3%	0.4%	0.6%
高等学校 卒業後	進学	施設入所児童	20.0%	33.3%	22.6%
		県全体	71.1%	70.6%	71.6%
	就職	施設入所児童	60.0%	66.7%	74.2%
		県全体	26.2%	26.5%	26.3%

表-3.九州各県の子どもの貧困率の推移

	全国	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
2012年	13.8%	19.9%	11.3%	16.5%	17.2%	13.8%	19.5%	20.6%	37.5%
2007年	10.0%	13.3%	11.0%	16.2%	11.7%	11.7%	16.1%	14.8%	30.7%
2002年	10.5%	14.3%	9.0%	13.0%	14.3%	10.9%	14.7%	14.9%	31.0%
1997年	6.0%	9.9%	6.2%	7.5%	9.7%	6.8%	10.3%	9.6%	26.8%
1992年	5.4%	7.9%	8.5%	10.5%	7.9%	9.7%	11.9%	14.5%	28.7%

大分県の子どもの貧困率

表-3によれば大分県の子どもの貧困率は、1992年に9.7%（全国5.4%）であったのが、2002年に10.9%（全国10.5%）、2012年には13.8%（13.8%）と全国平均と同様に徐々に拡大しています。九州のいずれの県も子どもの貧困率は高まっていますが、全国状況を見ると、九州だけでなく全国の地域間格差が無くなり、全体として子どもの貧困率が高まっているのです。これは非正規労働といった雇用の問題と較差の広がり が影響しているのではとも感じます。

今定例会では、県民クラブの玉田輝義議員（豊後大野市選出）が、一般質問で取り上げ、子どもの貧困が、将来の大分県にどのような影響を与えるのか、また、大分県としての対策について尋ねました。

広瀬知事は「生活保護世帯や児童養護施設などの子どもの高校進学率や中退率を、全国平均まで改善するための支援策を講じなければ、1学年当たり全国で約

2兆9千億円、大分県では235億円の生涯所得が失われ、経済的損失が生じると試算している。貧困の連鎖を断ち切り、子どもに明るい未来を託すためには、進学率の向上や教育の機会の提供が必要となる。加えて、こうした子ども達には、義務教育段階での基礎学力の向上と体力の増進こそが重要との思いから、学校現場での取組に力を入れている。本県の推進計画においても、生活保護世帯や児童養護施設の子どもの進路決定率などを県全体の水準まで改善するという目標指標を掲げ、教育の支援を最重要課題として貧困対策を総合的に推進する」と答弁しました。（表-1を参照）。

また対策に関しては、草野福祉保健部長から「今年度中に姫島村を除く17市町にスクールソーシャルワーカーが配置される予定であり、今後はスクールソーシャルワーカーをはじめとする関係者から様々な具体的事例の情報収集に努め、本県の子ども達の貧困の実態に則したきめ細やかな施策に取り組んでいく」との答弁がありました。

データの動向とはほぼ同じである状況を見ると、現状を数値的に把握することに力を注ぐよりも、個別の原因や解決策を講じていくことに力を注ぐことが大切なのかもしれません。学費の支援策や就労支援策によって、子ども達の進学の夢をなんとか繋げていくことが重要です。

貧困に悩む学生たち

大学に進学できた学生たちも、学費や生活費に追われて、バイトなどで働きながら学校に行かなければならないケースが少なくありません。近年では、ブラックバイトと言われる企業の存在も問題となっています。学生らは労働者としての権利を知らないままでブラックバイトに関わった場合、過重な労働を求められ、期末試験が受けられずに単位が取得できなくなるような状況に陥る学生もあるとのこと。

また、学生の1/2は奨学金を借りているのが現状です。現在の奨学金は学生ローンのようなもので、将来の返還に不安を感じる学生もいます。奨学金を借りることを躊躇する人も少なくないようです。給付型の奨学金について国に創設を求めています。政府は2018年度から月2~4万円の給付型奨学金を先行実施する方向で決めたようですが、対象者は限定的な内容であり、給付額も充分なものとは思えません。更に議論を深める必要があります。

将来の日本を背負って立つ若者が、将来に向けてのスキルを身につけるために大学が存在するのであれば、学生が在学中に学問に専念し集中できる環境を整えることが重要です。社会として、未来を創る若者への投資の有り様が議論されなければなりません。



もりちゃんの足跡



▲ 10.22 JR九州ユニオン労組の平和ウォーキングに参加。空襲の銃撃の跡が残る玖珠町の機関庫を訪ね、機関庫にまつわる話を伺いました。

▼ 10.26 由布高校に、台湾の高雄市にある小港高級中学校の生徒が修学旅行で来訪し交流しました。



▲ 11.18 大分県飲酒運転根絶県民大会が開催。取組にご協力された団体が表彰されました。

▼ 11.27 親なきあとを考えるフォーラムが、別府市で開催されました。障がいのある方々の支えが亡くなった時に、社会が支える方策を考えていかねばなりません。



お知らせ

- ◇ 常任委員会は、福祉保健生活環境委員会、特別委員会は行財政改革・グローバル戦略特別委員会に所属しています。また議員定数問題調査会の委員に新たに就任しました。
- ◇ 皆様の要請に応じて、意見交換会・座談会を開催しています。少人数でも結構です。ご希望の方はご連絡下さい。
- ◇ 守永後援会会員を常時募集しています。年会費は、3千円です。守永の活動をご支援下さる方は是非ご加入下さい。

(連絡先：097-532-4919 担当：後藤)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。2016年は、慌ただしく過ぎ去ってしまいました。いよいよ県議会議員としての2期目の折り返し地点にさしかかります。また、昨年4月に保護司の委嘱を受けました。1期2年が経過し、保護司としては2期目に突入です。▶初心を忘れることなく、めざすべきものを見失わないようにしながら、何をすべきなのか考えを巡らす時と感じています。▶今年は首長選挙を始め、様々な地方選挙が行われます。皆様の思いに寄り添いながら、いろんな方々と一緒に歩んで参ります。